

列島横切る巨大断層

表題は日経新聞 4 月 22 日朝刊「ニュースな科学」である。熊本県から大分県にかけて続く強い地震が気になり、この記事に注目した。

「一番の懸念は、(一連の地震が) 中央構造線につながっているということだ」。18 日に開いた緊急記者会見で、日本地震学会会長の加藤照之さんはこう語った。

14 日の夜に熊本市近郊で最初の地震が発生。16 日未明にそれを上回る規模の本震が起き、これをきっかけに阿蘇山周辺から大分県へと、マグニチュード (M) 5 級の地震が広がっていた。

今回のような直下型地震は、地下の断層がずれることで起きる。地震を起こした活断層の延長上で別の地震が起きることはしばしばあるが、これほど大きな地震が 100 キロ以上も進んでいくのは「かなり特徴的」(加藤さん) だという。

地震は、九州を横切る「別府一島原地溝帯」を東に進んだ。地溝帯というのは、両側を断層で挟まれた幅の広い谷のことだ。別府一島原地溝帯は、西日本を横切る長大な断層の連なり「中央構造線」の西端に当たる。中央構造線の周辺には並行して多くの活断層があり、地震の連鎖が広がるのではと懸念された。

中央構造線は、全長 1000 キロメートル以上に及ぶ。九州から四国北部を経て紀伊半島を横断。伊勢湾を横切り、天竜川に沿って北上して、長野県諏訪湖付近で本州の中央部を横切るフォッサマグナとよばれる巨大な地溝帯にぶつかる。このフォッサマグナの西の縁が、中央構造線と並ぶ巨大な断層帯として知られる糸魚川-静岡構造線だ。

異なる断層に由来する大きな地震が連動するのは、近代的な観測が行われるようになってからはあまり例がない。だが、過去の時代の文献からは、そうした事例があったことが見て取れる。

この記事からも、日本がいかにも「地震列島」であることがあらためて分かる。中央構造線の西南の方には川内原発、そして東に向けて伊方原発、浜岡原発がある。フォッサマグナのあたりには、「リニア中央新幹線」が計画されている。原発は無論のことだが、巨大プロジェクト「リニア」にも目を向けなくてはならない。

(2016 年 4 月 27 日)

